

南米初開催となるリオデジャネイロ五輪の開幕まで秒読みとなった。

今年の5月27日、バラク・オバマ米大統領が現職の米大統領として初めて被爆地・広島を訪問し、被爆者と抱擁するという歴史的な出来事が起こった。

オバマ大統領は就任直後の2009(平成21)年4月のプラハ演説で、「核なき世界」を提唱し、この年の10月、ノーベル平和賞を受賞した。しかし、その直後、アフガニスタンへの追加増派を決め、物議を醸した。

実は、リオ五輪でも当初、日本時間の8月6日に始まる開会式で、広島に原爆が投下された午前8時15分に世界中の人たちと1分間の黙禱をささげる広島追悼計画が持ち上がったが、最終的に見送られた。

五輪招致時、リオは好景気に沸いたが、今は深刻な不況

見送られたりリオ五輪の黙禱に思う



による治安の悪化や工事の遅れ、そして、ジカ熱など難題が山積み。揚げ句の果てには、「Welcome to Hell(地獄へようこそ)」という空港出迎えの横断幕が登場し、世界を驚かせた。

しかし、世界最大のスポーツの祭典である五輪が、身体能力の限界に挑む選手たちの戦いや妙技でもって、全人類に感動や勇気を与える素晴らしい催しであることに変わりはない。

もともと五輪の目的は、古代の「平和の祭典の復興」を目指すことにあったが、あまりに巨大なイベントゆえ、歴史や文化におけるさまざまな

課題も露呈した。しかし、「1分間の黙禱」は五輪が世界に発信するかけがえのない平和のメッセージになったかもしれない。

広島での平和祈念式典と五輪の開会式が地球上で同時刻に重なるチャンスは今後、いつやってくるのか……。今こそ加害者や被害者といったレベルを超越し、全人類が愛と英知により、未来を開き、五輪によって平和への思いを一つに繋ぐ瞬間が実現できたらと考えた。

(さとう・しのぶ=声楽家)
—毎月第3金曜日掲載

